

環境部 暮らしと命を支える若槻の自然を宝として

環境部長 大村 道雄

環境部自然環境部会はこの一年、私たちの生活を支えている地域の環境を、生活環境と自然環境という2つの側面から捉え、若槻地区の課題に取り組みました。

1) 生活環境の改善への取り組み

三登山産廃対策、生ごみゴミ減量など身近な問題に取り組みました。

- 三登山産廃対策では、市が実施する立ち入り検査・指導の状況と周辺での水質検査データの報告説明会を毎年開催し、参加者の不安や要望を訴えてきました。今年度は2月27日、田子公民館で開催しました。
- 生ごみ減量・堆肥化の実践は環境問題啓発事業の一つとして、今年は生ごみを出さない献立と料理の講座を開き、多くの参加者から喜ばれました。

2) 自然環境保全への取り組み

外来植物の駆除活動、湧水や河川溜池の水質監視のほか、以下の課題についても取り組みました。

○若槻自然遺産活用事業

「若槻自然遺産ガイドマップ」を携え各自然遺産を巡回する「散歩会」を実施し、故郷の自然の再発見、自然の豊かさを実感する時間を共有しました。春のカタクリ、信玄駒つなぎの桜を訪れる会は定番行事となっています。

○自然観察学習事業

昭和の森をフィールドにした木と草花観察、昆虫観察、野鳥観察のほか、土京川ではホタル観察、川の中の生き物観察など5回開催し、子供たちと共に森で昆虫を追いかけ、川の中ではサワガニやヤゴ、カワニナなどの生き物にじかに触れて、若槻の豊かな自然を体感しました。

○ホタルの保護保全関連事業

実行委員会に支えられたホタルウィークは6月24日から7月1日の9日間実施され、今年も多くの来場者に感動を与え感謝されました。浅川、徳間川でも定期的な観察を続けています。

環境部の事業は若槻地区ならでは活動です。次年度も多くの皆様の参加と支援をお願いします。



山千寺で説明を受ける参加者



森の生き物観察

福祉健康部

後期高齢者社会を見据え健康で安心して日常生活を送るための福祉活動を考え実施しています

福祉健康部長 望月 文男

後期高齢者社会を迎えた時に向け、コミわか福祉健康部はなにを目指し活動していけば良いのか！まず長野県は長寿命では女性1位、男性2位と全国トップクラスですが健康寿命となると必ずしも上位ではありません。特に健康寿命と寿命の差が10年もある点の改善から取り組みをと考えています。

高齢者になっていつまでも若々しく、自分のことは自分で、また、趣味を楽しみ仲間と楽しく過ごす日々…この様な生活を少しでも長く続けられたらと、誰もが思っているのではないのでしょうか。

1) 福祉部会はそのために「健康な身体」「健康な脳」「楽しく過ごす仲間づくり」の一助となるように若槻地区住民の皆さんとコミわか各団体の協力を得ながら、29年度の様々な行事を実施して参りました。

特に介護予防・日常生活支援総合事業の取り組みとして、地域福祉ワーカーを中心に介護を必要とする時期を少しでも遅らせようと「はつらつ応援隊養成講座」、「はつらつ運動講座5回シリーズ」を行い、各地区で自主グループが立ち上がり、筋肉や頭(脳)のトレーニングを含めた健康体操に取り組んでいます。それと並行して、お茶のみサロンも実施し、新しい仲間、友達が増えています。

2) 健康部会では食事から健康な身体づくりをテーマとした講座を開き、塩分や糖分の摂りすぎは生活習慣病にどのような影響を及ぼしているか、また、高血圧や糖尿病を予防する食事と運動の関係を知る等々、毎日の生活の中で生活習慣病予防に役に立つ講座を実施し、毎回参加人数が増えてきています。

30年度は、コミわか各事業は第二次まちづくり計画に沿って福祉健康部も、工夫すべきところ、継続すべきところを見直し、皆が安心して楽しく暮らせる若槻地区を目指して参ります。



お茶のみサロン (徳間区)



はつらつ運動講座(東徳間自治会)



びっかり教室(大人のラジオ体操)